

熊野街道について

和歌山と大阪をむすぶ幹線道路として古来から往来のあった道。ルートはほぼ同一だが、時代によりいくつもの呼び名で親しまれてきたことがわかつている。

| 街道の呼び名の変遷 | |
|-----------|-----------|
| 古代 | 南海道 |
| 中世 | 熊野街道 |
| 近世 | 小栗街道・紀州街道 |
| 近代 | 小栗街道・紀州街道 |
| 現代 | 通称「街道」 |

南海道 古代

現在、熊野街道として有名なこの道も、古代には難波宮から紀伊への幹線道路であったと考えられている。ただし詳しいルートは判明していない。

海会寺跡

南海道のすぐそばにあった寺院。創建は7世紀半ばでちょうど大化の改新直後のこと。10世紀代には焼失し、もとの規模に再建されることはなかった。発掘調査により、現存する寺院跡では屈指のものであることが判明している。

熊野街道 中世

熊野三山への巡礼の道。ルートは京都から淀川を下り、大阪天満付近から陸路で熊野を目指すもの。

熊野詣は十一世紀から十五世紀にかけて、公家から庶民まで幅広く浸透した信仰だ。熊野三山（熊野本宮大社・田辺市、熊野速玉大社・新宮市、熊野那智大社・那智勝浦町）に祀られる神仏に現世の幸福・富貴・延命と来世の往生を願うもの。正和五（1316）年の絵図には「熊野大道」と記されている（『日根荘日根野村荒野開発絵図』）。

王子跡

熊野三山への巡礼者を守る御子神、休憩所、遥拝所だとされている。市内にあった王子は最も多く、厩戸王子、長岡王子、信達・信達一ノ瀬王子。1201年の記録では「厩戸王子・信達一ノ瀬王子」（藤原定家『後鳥羽院熊野御幸記』）、1210年の記録では「厩戸王子・次長岡、次信達王子」（藤原頼資『修明門院熊野御幸記』）の順番。藤原頼資が「路地の王子、皆もつて破壊転倒し」と嘆くとおり、その数が一定でなかったことが分かる。

小栗街道

説教節「小栗や浄瑠璃」小栗判官車街道」で、小栗判官が熊野まで運ばれたことにちなんだ呼び名。文献では十八世紀に「小栗街道」として記されている。

紀州街道

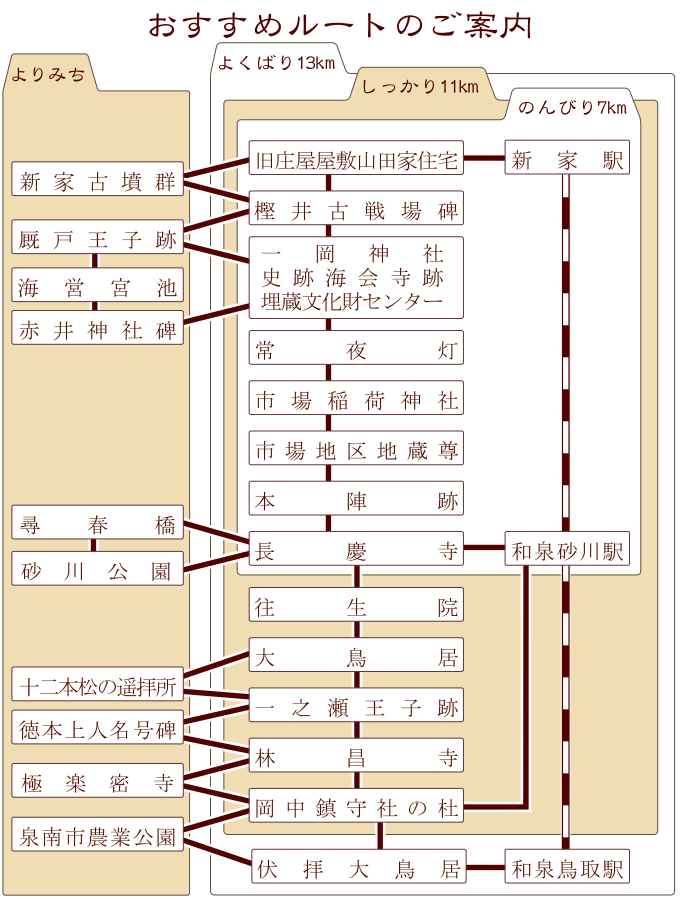
紀州徳川家の参勤交代のルート。元禄十四（1701）年から参勤交代の道として使用されそれに伴い信達宿も、より賑わいを見せるようになったと考えられる。文政八（1825）年の記録では「紀州若山街道」と記されている。（『樫井川定橋寄進帳』）

せんなんの街道マップ

この地図は住民と行政がアイデアを出しあって作成しました

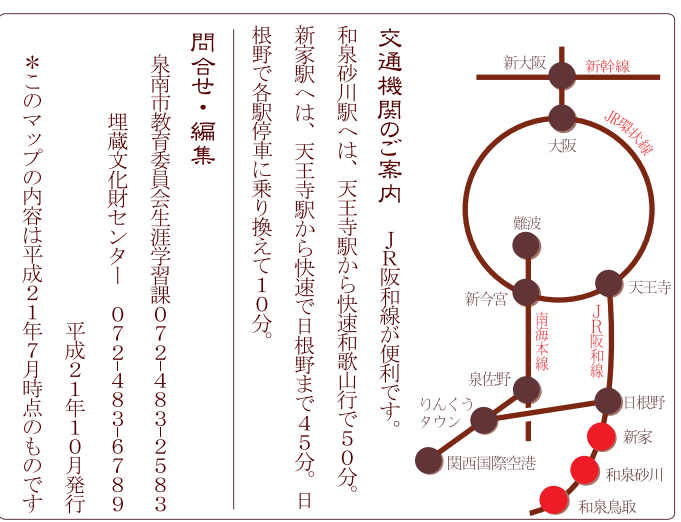


熊野街道



街道沿いの町並

紀州街道信達宿の中心として発達。時代と共に町並も変わりつつあるが、本陣跡、旅籠跡、常夜灯が残り、昔の宿場の様子がしのばれる。古い家屋は、入母屋造りで妻入りのものが多く街道に対して間口が狭く、奥が深いのが特徴である。現在でも古い家は屋号で呼び習わされており、織や、紺や、かせや、鍛冶や等以前の職業で呼ぶことも多く、宿場町だけではなく、商工業も発達していたことをうかがわせる。



ひと昔前の熊野街道沿い

梅林と尋春橋

尋春橋がかげられたのは昭和5年。阪和電鉄が開通したのがきっかけだ。架橋の理由は、白砂青松の景勝地、砂川奇勝や、砂川梅林へと通じる道であったため。というのも「大阪・岸和田・佐野の辺の人は岡田浦で下りて、この道を通って砂川へ行った。梅見時などにはかなりにぎわった」そうで、「文字通り砂川の梅の春を尋ねて行く橋であった」とのこと（大正4年生まれの方の思い出・『懐かしい泉州の風景』より）。

砂川奇勝と砂川遊園地

砂川奇勝は、『和泉名所図会』にもみられる景勝地。隣接して開発されたのが砂川遊園地。「第二の宝塚」をめざした観光地だ。昭和10年に開園。砂川奇勝・高倉山の自然景観と調和した大遊園地であった。しかし、この遊園地も戦争の渦に巻き込まれ、さびれてしまった。

作庭家 重森三玲

昭和を代表する作庭家、庭園史研究家。庭園を独学で学び、京都の東福寺方丈庭園など国内に約200もの庭園を作庭。市内には重森氏作庭の庭園が4箇所あったことが確認されている。うち林昌寺の「法林の庭」は今も見ることができ。昭和36年の作品で、斜面に配した自然石が見事。庭園隅にある石碑は重森氏の揮毫。

信達市場の成の市

師走の小晦日の十二月三十日に催された。JA信達支店から長慶寺に上る道路の角にある灯籠（常夜灯）付近まで、紀州街道の両側に露店がびっしりと並んだ。正月を迎えるための食料品（黒鯛、かずのこ、くわい、かまぼこ等）やしめ縄、干し柿ほか子どものおもちゃ、絵本、菓子、のぞきからくり、ガマの油売りもあり、近郷近在のおとな、子どもでにぎわった。昭和10年を過ぎると物資不足で次第に開かれなくなった。

熊野街道沿いの秋祭り

五穀豊穣を感謝するもので、各地区で行われる。各地区ごとにやぐら（二輪の山車）が引き出される。毎年10月初旬に各地区で行われ、市役所前でのパレードも開催。まつりのご馳走は押し寿司。木枠は大きく2升のものもある。味付けは「しつかりめ」でとても美味しい。

熊野街道沿いの花の見所

ふじ 信達宿の野田藤

個人宅だが藤の名所として有名。保存会など地域住民の協力もあり、毎年数万本の花房をつける。心地よい藤の香りが楽しめる。

さくら 一岡神社

一岡神社境内の桜は見事。広場にはベンチもある。中之池と丘之池の間の並木は、満開時には桜のトンネルに。

つばき 林昌寺

江戸時代、林昌寺裏山のイワツツジが花見の名所だった。現在は境内のツツジが楽しめる。

熊野街道沿いの見所

土壁の塀

土壁から川原石がのぞく。レンガや割り石など利用したものもあり個性豊かだ。

竹林

岡中地区では筍が出荷されており、整備された竹やぶが多い。風にそよぐ葉の音が心地よい。

新家古墳群〔B4〕発掘調査により径10m前後の円墳が6基確認された。5世紀後半から6世紀中頃までのもの。うち2基が保存。旧庄屋敷山田家住宅〔B4〕主屋・米蔵・表門など8件が国登録有形文化財。毎月第4日曜日が一般公開日。個人宅です。公開日以外の見学はご遠慮ください。

櫻井古戦場碑〔A4・泉佐野市〕大坂夏の陣の緒戦、櫻井合戦の舞台。豊臣方が多勢をいかせず徳川方に敗退した。古戦場一帯は、国道26号の橋から一望できる。

史跡海会寺跡〔A4〕7世紀中頃創建の寺院跡。国史跡に指定され、史跡整備されている。出土遺物のうち302点が国重要文化財。埋蔵文化財センターで展示している。

一岡神社〔A4〕別名「祇園さん」。境内の桜が見事。頭がよくるといわれる「知恵の神様」の参拝方法がユニークだ。

厩戸王子跡〔A4〕「熊野九十九王子」のひとつ。天満橋付近から19番目で、市内に入って最初の王子跡。大阪府指定史跡。

海宮宮池〔A4〕行基が開いたとされる。周辺5地区の農業用水をまかなう。ここで発見された木葉型木頭器は、市内最古の遺物。

本陣跡〔A3〕江戸時代中期以降、参勤交代のため江戸へ向かう紀州徳川家一行がここで泊った個人宅です。敷地内の見学はご遠慮ください。

市場稲荷神社〔A3〕信達市場地区の氏神。秋祭りには、五穀豊穣を感謝する「御座」や、やぐらの宮人が行われる。**常夜灯**〔A3〕信達宿の目印。近年まで地域の人達により明かりがともされていた。江戸時代、道中の安全を願い、伊勢参り・金毘羅参りの講中が奉納したものだ。

真如寺〔A3〕浄土宗のお寺。紀州藩の隠れ本陣でもあった。門脇のカイズカイブキの老木は松平主税後の吉忠の植樹といわれる。

市場地区地藏尊〔A3〕仏性寺にあったとされ、現在は市場区で祀る。

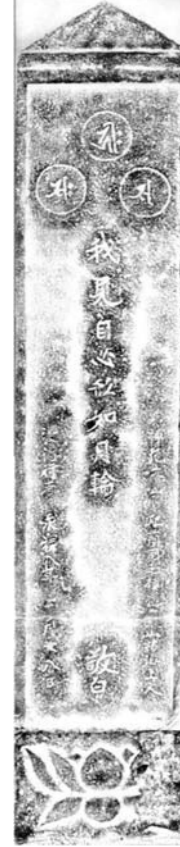
長慶寺〔B3〕アジサイが評判の真言宗のお寺。境内からは大阪湾を一望でき、眺めが素晴らしい。



砂川奇勝の写真 昭和20年代に撮影されたもの。現在は一部のみが砂川公園として保存されている。



おんどりの大鳥居の写真 昭和17年ごろに撮影されたもの。交差点南に道をまたいで鳥居がたっていた頃の写真。



渡海上人碑の拓本 林昌寺石碑の拓本。20年ほど前にとられたもの。銘文も鮮明にわかる。

熊野街道周辺のせんなんのたからもの

市内資源発見活用（せんなんのたからもの）事業の応募物件。泉南らしい有形無形の文化遺産です。応募件数は300件ほどで、現在は市域のエココミュニケーションページで公開（ダウンロード可）。

市内資源発見活用（せんなんのたからもの）事業の応募物件。泉南らしい有形無形の文化遺産です。応募件数は300件ほどで、現在は市域のエココミュニケーションページで公開（ダウンロード可）。



大阪ミュージアム構想 "Osaka, The Museum" Concept

熊野街道周辺の大阪ミュージアム登録物
市内所在の登録物68件うち、熊野街道沿いのものなど25件をご紹介します。

| 名称 | 位置 | 説明 |
|-----------------|------------|--|
| 熊野街道と「信達宿」のまちなみ | A2・3 | 熊野三山への参詣道や江戸時代の参勤交代の道として発達。 |
| 信達宿本陣跡 | A3 本陣 | 江戸時代、紀州徳川家が参勤交代で利用した宿所。 *個人が在住まいのお宅です。無断で見学などのないようお願いいたします。 |
| 長慶寺と紫陽花 | B3 長慶寺 | 全山に植えられたアジサイは見事。 |
| 砂川奇勝 | C3 砂川公園 | 砂川のように流れる景勝地。現在は一部のみ残る。 |
| 真如寺 | A3 | 紀州徳川家の参勤交代に「隠れ本陣」として利用された。 |
| 信達宿のふじまつり | A3 | 個人宅にある野田藤を開花時期に一般客に開放。 |
| 信達宿の野田藤 | A3 | 毎年3万以上の花房をつける。 *個人が在住まいのお宅です。無断で見学などのないようお願いいたします。 |
| 往生院 | B3 | 境内の二面石仏が珍しい。 |
| 一之瀬王子跡 | B2 馬頭観音 | 「馬頭さん」として地域の人に親しまれている。 |
| 徳本上人名号碑 | B2 | 江戸時代の木食僧、徳本上人の名号碑。 |
| 林昌寺の瀧洞 | B2 林昌寺 | 寺院に植えられたツツジが見事。 |
| 岡中鎮守社の社 | B2 岡中の大楠と榎 | 樹齢800年といわれる大楠と、隣のマキが見事。 |
| 幡代のまちなみ | A2 | 重厚な建物が多く、静かで落ち着いた雰囲気。 |
| 極楽密寺 | A2 | 紀州徳川家の祈所となり、所々に葵の御紋が見られる。 |
| 泉南市農業公園 | C1 | 春のチューリップ、秋のコスモスなど見所いっぱい。 |

尋春橋〔D3〕「春」を「尋」ねる橋。梅の名所であった砂川への道に、昭和5年の阪和電鉄開通時に架設。橋柱は初代のものだ。

信達宿の野田藤〔A3〕昭和62年に植えられたもの。見頃には一般公開され賑わう。個人宅です。公開日以外の敷地内の見学はご遠慮ください。

和泉砂川駅〔B3〕昭和5年に阪和電鉄の信達駅として開業。その後、阪和砂川、砂川園に改名。駅舎はほぼ開業当時のままだ。

砂川公園〔B3〕白色砂礫層が雨水の浸食をうけたもの。現在は一部が公園として残る。

往生院〔A3〕真言宗のお寺。室町時代のもっとされる二面石仏（板碑形宝塔）は珍しい。秋祭りには、五穀豊穣を感謝する「御座」が行われる。

大鳥居の交差点〔A3〕かつて大鳥居の交差点をまたいでいた。信達神社を拜むためのもの。

十二本松のお旅所〔B3〕信達神社から樽井の浜を指す御神輿の休憩場所だった。鳥居は大鳥居の交差点から移設されたものだ。

一之瀬王子跡〔B2〕別名「馬頭観音」。一之瀬王子の候補地のひとつ。「熊野御幸記」の記述にある地形の類似が根拠だ。

徳本上人名号碑〔B2〕徳本上人は江戸時代の修行僧。日高町（和歌山県）にある生家跡は県指定史跡だ。名号碑は日本各地を行脚した足跡で、各地に点状する。

林昌寺〔B2〕真言宗のお寺。補陀落渡海碑や仏足石は必見。裏山の竹やぶからは、銅鐸が見つかった。

泉南市農業公園〔C1〕愛称は「花咲きファーム」。チューリップやコスモスが楽しめる。

伏拝大鳥居〔B1・阪南市〕大きな石造りの鳥居。街道から波太神社を拜むためのものとされる。